

反転が生み出す論文執筆のブレークスルー ー ディスカッションベースの論文投稿ファシリテーション ー

オーガナイザ：松浦 健二（徳島大学），後藤田 中（香川大学），高木 正則（電気通信大学），
近藤 伸彦（東京都立大学），山元 翔（近畿大学），林 佑樹（大阪公立大学），
山崎 治（千葉工業大学），油谷 知岐（香川大学），吉原 和明（近畿大学）

JSiSE 学会誌編集委員会では 2015 年まで、全国大会プレカンファレンス企画として、チュートリアルを実施してきました。以下は、これまでの本企画のチュートリアルの例です。

- ・ 編集担当委員が語る JSiSE 論文投稿入門
- ・ 論文投稿から掲載までの流れ、投稿に際しての注意
- ・ 論文種別と採録基準ー現状と改訂の方向性ー
- ・ 査読の観点と査読コメントに対する対応のノウハウ
- ・ 教育現場の取り組みを実践系論文にまとめるには
- ・ 採録される論文の書き方ー誌上チュートリアルー
- ・ 教育システム情報学における質的データを扱う学習評価のミカタ

学会誌では、2020 年から、論文の「問い」や面白さを著者が語る「採録論文/受賞論文ハイライト」を学会誌に掲載する取り組みを始めています。本ハイライトは著者が読者に分かりやすく研究を紹介しています。この内容は、Web サイト「採録論文・受賞論文ハイライト」(<https://scrapbox.io/jsise-rq/>)にも掲載されており、本サイトはプレカンファレンスの参加形態と同様に会員・非会員に関係なくご覧いただくことが可能です。セッション前半では、本サイトにこれまでに掲載された同コンテンツを用いながら、活用いただく方法をご紹介します。

また、セッション後半において、「反転+ディスカッションベース」の論文投稿の相談会を継続します。これは、事前に論文執筆チュートリアルのコンテンツを視聴していただいた上で、本セッション中に論文投稿に向けたご相談や議論を行っております。この相談会は 8 年前（2016 年）から実施しており、ご好評をいただいていることから、本年度も継続するものです。本学会には、一般系論文（一般論文、ショートノート）と実践系論文（実践論文、実践速報）で合わせて 4 つの論文カテゴリがありますので、例えば、論文投稿をしたいが 4 つの論文カテゴリの区別が判然としない方や、実践論文として満たさなければならない基準を知りたい方、研究を進める上でのポイントやヒントが欲しい方、査読における考え方を整理したい方など、投稿に関するあらゆる不安・お悩みについて、編集委員・参加者の知恵を合わせて、是非、一緒に考えたいと思います。

なお、一般・特集号に関わらず今後投稿を予定しておられ、編集委員（Adviser）から論文執筆のアドバイスを受けたい方（Advisee）には、次の二つをお願いします。

1. 事前に論文執筆チュートリアルのコンテンツ(<https://www.jsise.org/paper/subguide/>)を閲覧（2021 年 4 月発刊の学会誌(38 巻 2 号)の 2 つの記事 ※オープンアクセス）

■ 一般系論文、実践系論文の位置づけ、考え方は以下の解説記事・映像をご参考下さい。

瀬田和久，桑原千幸，仲林清：採録される論文の書き方-誌上チュートリアル
(記事)https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsise/38/2/38_380203/_article/-char/ja/

(映像)https://drive.google.com/file/d/1o_ozmlgK7Nr4okW42Oe0mmx3ln1QY6V6/view

■ 質的データに基づく学習評価の考え方は以下の解説記事をご参考下さい。

田中孝治，津森伸一：教育システム情報学における質的データを扱う学習評価のミカタ

(記事)https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsise/38/2/38_380204/_article/-char/ja/

(映像) <https://drive.google.com/file/d/1ljPKDb4ITHttlPSaK5UcbDozLUSp9oO0/view>

2. プレカンファレンス当日，投稿予定の研究内容や執筆上のお悩みをプレゼン

(特に 1.の閲覧に基づき，評価して欲しい「新規性」，「有用性」をプレゼンで提示下さい)

プレカンファレンス当日は，編集委員・参加者との対話・議論を通して，論文執筆へとつながるブレークスルーを見出していただきたいと思います。Adviseeの方は，事前に参加申し込みをお願いします（募集の詳細は学会員メーリングリスト jnews などでお知らせします。なお，希望者多数の場合は選定させていただくことがございます）。学生や若手研究者をはじめ，投稿を検討されている方も対面・オンラインに関わらずご参加下さい。また，Advisee でない方のご参加も歓迎いたします。Advisee のプレゼンや編集委員との議論を聴講していただくだけでも，今後の論文執筆に役立つと思いますので，ぜひ当日の参加をご検討ください。